

不幸がおきたら……

葬儀の心得



誠意をこめて安心のお手伝い

 **大阪屋葬祭**

阿久比ホール

TEL<0569>49-4949

不幸がおきたら…… 葬儀の心得

枕づとめ

①ご遺体の安置

(イ)末期の水(死に水)

- ・血縁関係の近い人から順に、水を含ませた脱脂綿で唇をうるおします。

(ロ)湯灌ゆかん

- ・アルコールでご遺体を清めます。

(ハ)死に化粧

- ・ご遺体に身づくろいをします。頭髮を整え、男性の場合はひげをそり、女性や子供の場合は薄化粧をして紅をさし、爪なども切りそろえてあげます。

(ニ)北枕

- ・着物を左前(女性の場合も左前です。)にして着せて、仏間か座敷で寝具に寝かせ、刃物を置くのがしきたりのようです。(北枕にできない場合は西枕にします。)

(ホ)神棚を封じる

- ・戸を閉め、白紙(半紙等)を貼ります。
- ・表に忌中の掲示をします。

(ヘ)枕飾り

- ・枕元に経机を置きます。
- ・三具足(1本線香、1本ローソク、1本檜ひのこ)、水、枕だんごを飾ります。
- ・御飯みけ、鈴を飾ります。

臨終

①死亡

(イ)病院で死亡した場合

- ・医師による死亡確認の後、死亡診断書をもらいます。
- ・湯灌をして、ご遺体は霊安室へ運ばれます。
- ・大阪屋葬祭阿久比ホール(TEL 0569-49-4949・24時間体制)に連絡、ご遺体を霊柩車でご自宅に移送してもらいます。
- ・病院でお世話になった方々にお礼を述べ、荷物の整理をして費用の精算をすませます。

(ロ)自宅で死亡した場合

- ・医師に来てもらって死亡確認の後、死亡診断書をもらいます。
- ・大阪屋葬祭阿久比ホールに連絡します。

(ハ)事故死の場合

- ・警察による検死がすむまではご遺体にふれてはいけません。
- ・死体検案書をもらいます。
- ・大阪屋葬祭阿久比ホールに連絡をして、ご遺体を霊柩車でご自宅に移送してもらいます。

臨終



枕づとめ



葬儀の準備



通夜



葬儀・告別式



出棺・火葬



初七日法要



精進落とし



葬儀の終了後

②お寺に連絡

- (イ) 僧侶の予定をきいて、枕経に来て頂く時間を決めます。なお夜10時を過ぎたら、翌朝にお願いして下さい。
- (ロ) 通夜、葬儀、出棺、初七日法要などのスケジュールを僧侶と打ち合わせます。
- (ハ) 法名、戒名を依頼します。

③納棺

- ・身内の者だけで行います。
- ・愛用の品々を入棺します。
- ・火葬の際、焼け残るもの(ガラス、金属、陶器など)は避けます。

葬儀の準備

①喪主世話役の決定

(イ)喪主

- ・故人と最も血縁の濃い人が喪主になるのが原則です。喪主は葬儀の主催者となり、遺族の代表者として弔問をうけ、また引き続いての法要、納骨、年忌法要などの仏事の施主となるので、責任をもって供養を営める人をたてます。

(ロ)葬儀委員長(世話役)

- ・喪主や遺族側の事情や地域の習慣のよくわかっている信頼のできる経験豊かな人に頼みます。世話役は葬儀に必要な係を決め、役割を分担しておきます。

②葬儀内容の決定

- (イ) 通夜・葬儀の規模、日時・場所を決めます。
- (ロ) 祭壇の費用、葬儀の費用などの内容を決めます。(予算はどれくらいにするのか、故人の社会的地位や交際範囲はどれぐらいか、故人の遺言、遺族の意向、今後の遺族の経済的な見通しなどを加味して決めます。)

③死亡届け

- (イ) 死亡診断書と一対になった死亡届けに必要な事項を記入し、市町村役場に届けて、火葬許可証をもらいます。(住所地と本籍地が同一市町村でない場合は二通必要です。)
- (ロ) 出棺と火葬の時間を決めます。
- (ハ) この時に、大阪屋葬祭の宮型霊柩車あるいは各市町の寝台霊柩車のどちらにするか決めます。

④死亡通知

親戚、縁者には直ちに知らせますが、一般的には葬儀の日程が決まってから連絡します。隣近所へは町内会長を通じて連絡します。向こう三軒両隣には直接伺って連絡します。

⑤葬儀の手配

- (イ) 大阪屋葬祭と相談し、祭壇や料理、粗供養品、香典返しなどを決めます。
- (ロ) 遺影写真を用意します。
- (ハ) 喪服を用意します。

通夜

①通夜

- (イ) 自宅から式場へご遺体を移送します。
- (ロ) 開式の30分前から受付を開始すると共に、駐車場案内を始めます。
- (ハ) 弔問者のお悔やみをうけます。
- (ニ) 司会者より通夜式開式を宣します。なお開式後は、当社の司会に沿って式を進めます。
- (ホ) 焼香順位、喪主挨拶など当社と打ち合わせの上、葬儀当日までに決めておいて下さい。

②通夜終了後

- (イ) 通夜ぶるまいとして、お食事や飲物を出されることがあります。
- (ロ) 近親者が交替で、ローソク、線香を絶やさないように、ご遺体をお守りします。

葬儀・告別式

正式喪服を着用して下さい。

〈葬儀の流れ〉

- ①喪主、遺族、親族など参列者着席
- ②僧侶着座
- ③開式の辞(司会者)
- ④読経、引導渡し
- ⑤弔辞、弔電
- ⑥遺族焼香
- ⑦一般会葬者焼香
- ⑧僧侶退場
- ⑨閉式の辞(司会者)

※宗旨、宗派、地域により多少異なります。

出棺・火葬

① 出棺

- (イ) 喪主、遺族、親族は祭壇の前に集合します。
- (ロ) 棺に生花や故人の愛用品を入れ最後のお別れをします。
- (ハ) 喪主、遺族は位牌、遺影、遺骨箱を持ち霊柩車に向かいます。
- (ニ) 近親者がお棺を持ち、霊柩車にお移しします。
- (ホ) 喪主が会葬者に対する御礼の挨拶をします。
- (ヘ) 挨拶終了後、火葬場へ同行する方は、所定の車に乗り霊柩車につづきます。
(大阪屋葬祭マイクロバス等)
- (ト) 火葬許可証を必ず持参します。

② 火葬

- (イ) 火葬場では、火葬場係員の指示に従って頂きます。
- (ロ) 火葬許可証を事務所に提出します。
- (ハ) 収骨までの間、控室で待機します。なお、この間に精進落としへのご列席者の人数を確認します。
- (ニ) 火葬場係員の説明に従ってお骨あげをします。
- (ホ) 収骨後、埋葬許可証を受け取ります。
- (ヘ) 火葬場への行き帰りは、なるべく同じ道にならないようにします。

初七日法要

① 法要精進落としの準備

- (イ) 出棺後、式場に残った人で法要、精進落としの準備を行います。
- (ロ) かご盛り等、お供物を分けておきます。

② 初七日法要

亡くなられた日を含めて七日目に行う法要。

- (イ) 最近では、この初七日法要は葬儀当日に行ないます。
- (ロ) 遺骨、位牌、遺影などを飾った祭壇の席に僧侶を招きお経をあげて頂きます。

精進落とし (仕上げ)

- (イ) 僧侶、葬儀委員長、各世話人、お手伝い頂いた方々に上座について頂きます。
- (ロ) 会食前に喪主が御礼の挨拶を述べます。
- (ハ) 会食中は喪主遺族が接待にあたります。

葬儀の終了後

- (イ) 現金や名簿などの引き継ぎをします。
- (ロ) 借り物を返却します。
- (ハ) 支払い、明細書、領収書、埋葬許可証を保管します。
- (ニ) 葬儀社、その他へ支払いをします。
- (ホ) 寺院、特にお世話になった方、世話役を引き受けて下さった方などに直接挨拶に出向きます。
- (ヘ) 弔電やお悔み状を下された方などに礼状を発送します。
- (ト) 香典返しは忌明けを目安に発送します。